

2学期、運動会や学芸会などの大きな行事を体験する中、子どもたちは一段と成長し、自分なりに表現することを楽しむ姿が見られるようになってきたのではないのでしょうか。さて、今号では、今年度の「保幼小連携合同研修会」の内容についてまとめるとともに、「保幼小連携運動遊び指導者研修会」の様子を特集しました。

保幼小連携合同研修会（7月～8月）－保・幼・小の滑らかな接続に向けて－

本研修会のテーマ「学級集団の中で、自ら考え、主体的に行動する子どもを育成するために」のもと、昨年度に引き続き、あえて双方の立場を変えて、保育園・幼稚園の先生方が「スタートカリキュラム」を、小学校の先生方が「アプローチカリキュラム」を作成し、その上で「保幼」と「小」のカリキュラムをつなげて一つにすることに取り組みました。一つになったカリキュラムを通して互いに考察を深め、「接続期」の欄も手掛けることにより、接続期に重要なこと、保育者・教師が大切にしたいことなどについて話し合っていました。この協議会中に多くあがっていた意見を下記の表にまとめました。

接続期における重要なこと

- ☆基本的な生活習慣を見直す。
- ☆あいさつをしっかりとする。
- ☆自分の思いを言葉で伝える。
- ☆決まりが守れる子どもを育てる。
- ☆保育者・教師は、子どもとの信頼関係をしっかりと築く。
- ☆子どもたちの困り感に気づき、配慮する。
- ☆保育園・幼稚園に通うのが楽しいから、小学校も楽しみ！と思える気持ちを育てる。
- ☆自分で出来ることは自分でしよう！という子どもの意識が高められるように、家庭と連携を図る。
- ☆保育者・教師の支えのもと、何事もやってみよう！あきらめないでがんばろう！とする気持ちを育てる。
- ☆保幼小連携を大切にすることで、接続期に必要なことを話し合う。



保育園・幼稚園

具体的な活動や働きかけに必要なこと

小学校

- ・持ち物の整理場所を決め覚える。
- ・園での主体的な活動(好きな遊び・運動会・発表会・当番活動など)を通して「達成感や自信」をつける。
- ・心を落ち着かせて人の話が聞けるような環境をつくる。
- ・豊かな経験を積み重ねながら、集団活動の楽しさを味わう。
- ・クラスで一つのことに取り組み、達成感を味わうことで集団としての育ちが芽生える。
- ・交流活動は、一年生の姿に憧れを抱き、就学への期待感が高まり、小学生や教師に親しみを感じる機会である。
- ・園児と一年生が互いにより刺激を受け合って成長することのできる保幼小の交流を目指す。

- ・一年生が教師に親しみ、「先生好き！」というような関係をつくる。
- ・子どもが自分らしく過ごせるようにする。
- ・子どものよいところを認め、「こうしたほうがいいよ」と、アドバイスをしたり、時には見守ったりする。
- ・子ども同士がかかわる中で、相手のよさに気付くことができるような指導を行う。
- ・教え込むのではなく、学びを深める方法として、ゲームなどを取り入れる。
- ・子どもたちが授業や課題に興味や関心をもてるように、視覚化(写真や映像機器の使用・イラスト・カード・身振り手振り…他)するなどの工夫をする。

＜共通＞ 保育園 幼稚園 小学校

- 子どもの行動の様子を捉える時、どんな意味があるのかと推察することが大事である。
- 普段から子どもにしてほしいことは手本を示したり、保育者も子どもたちと一緒にやってみたりする。
- 保護者は園生活で手厚くしてもらったことと同じようなことを望んでいるところもあるようだが、小学校には限りがある。子どもや保護者に寄り添いながら、よりよいコミュニケーションを図る。
- やるべきことがきちんとわかるように、課題やすべきことを明確に提示し、見通しをもたせていく。
- 様々な場面を想定して心を配る。安心・安全な生活を送ることができるようにしていく。

保育園・幼稚園

参加された先生方のご感想の中から抜粋

小学校

- ・日頃の保育・指導や学級の様子を通して保育者・教師間で共感することや、子どもや親への思いなどについて意見交換することができてよかった。
- ・話を聞く態度、言葉で思いを伝えることの重要性などを考えさせられた。
- ・幼児期にどこまでやればよいか、何をすればよいか考えるのは難しかったが、今回、一年生の立場になって考えることで幼児期に経験しておくことが明確になった。
- ・生活習慣などについて、改めて見直していく必要があると思う。
- ・各園での給食時間帯や文字に関すること、和式トイレの使い方等、具体的な取り組み方の話を聞くことができて参考になった。
- ・「安心」と「自信」を育てていきたい。

- ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムをつなげた時に、「生活習慣・運動」を基盤として「人のかかわり」「学びの芽生え」へと、段階を経ながら指導していくことの大切さを感じた。
- ・保育園・幼稚園時代から持ち物の管理をきちんとさせることが大切だと思う。教師自身も毎日持ち物のチェックをしている。忘れ物をすると子ども自身が困る。
- ・夏休み期間などを利用して、教師が保育園や幼稚園に出向いて保育体験を行う機会がもてるとよい。
- ・接続期は「竹」に例えると「節」の部分になると思う。この時期を大切にすることによって、子どもたちはぐんぐん伸びていくと思う。
- ・幼児・児童の年齢や発達段階を押さえながら、子どもの目線に立って「園から小学校へ入る子どもたちの不安はないか？」などと考えるようにしたい。

保幼小連携運動遊び指導者研修会（8月29日 大田区総合体育館・参加者101名）

「幼児期運動指導リーダー保育者養成研修会」、「家庭教育支援講座」等でご指導していただいている**体育科学博士：柳澤 弘樹先生**をお迎えし、保育者及び小学校教師を対象とした研修（講義、実技、グループ討議）を行いました。熱心に受講なさっていた保育者・教師間で交わされていたご意見を紹介します。

保育園・幼稚園

協議会やワークシートからあがった課題

小学校

- ・転んだとき、とっさに手が出ない。
- ・運動が苦手な子どものことを運動嫌いだと捉えていた。
- ・ケガが怖いので、保育者側が構えてしまっている。
- ・鉄棒、ボール投げ、縄跳び、マット運動、全力疾走など、運動によって個人差があるので、多様な援助の仕方を身に付けたい。

- ・教師側の得意・不得意により、運動の取り組み方に違いがあると思う。
- ・単元によって課題が違うので、運動遊びに取り組みめない。
- ・個々の運動の様子から、幼児期の運動経験が鍵を握っているように感じる。
- ・勝ち負けにこだわっているうちは、集団遊びの継続が難しい。
- ・休み時間に校庭に出たがらない。

園や学校での指導の工夫

- ・運動量を確保する。
- ・肯定的な言葉かけをする。
- ・友達のおさがりを見つけられるような指導を心がける。

- ・休み時間に、外に出たがらない児童への対応に気を配る。
- ・児童が楽しめる活動を取り入れ、めあてをもたせて取り組めるようにする。
- ・運動遊びを楽しみながら、どんな力がつくか説明することも大切にしたい。
- ・個人差に配慮しながら、目標を定め、成功体験が獲得できるようにしていく。
- ・やる気が出るように、ちょっとした変化を見逃さずに認める。
- ・必要に応じてレベルアップすることも重要であるが、技能の習得を求めるものではない。
- ・くま歩き・かえるジャンプ等の動きをイメージし、学級全体で楽しんで取り組めるよう大人もなりきる。

